



水田魚道の設置を通じた活動の展開

えのきまえ あんじょうし
榎前環境保全会（愛知県安城市）

- 本組織は、平成19年度から農地・水保管理支払に取り組んでおり、近年の環境配慮に係る意識の高まりなどを受けて、愛知県農業総合試験場等との連携のもと、地区内の水田に水田魚道及びカエルの脱出装置を設置。
- 水田魚道と魚道を設置した観察水田において、生物の観察や伝統的農機具を用いた農作業体験など、子どもが農業や環境の大切さを再認識し、地域や農業への理解を深める活動を実施。
- また、地元の保育園・子供会等との連携のもと地域資源の保全活動を実施しており、景観保全のために植栽したヒマワリを活用したイベント等を開催。更に、地元農協は、水田魚道を設置した水田で栽培した減農薬米を「どじょうの育み米」として販売。

【地区概要】

- ・取組面積 69ha(田65ha、畑4ha)
- ・資源量
開水路 13.0km、パイプライン14.6km、
農道 8.5km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、町内会、
榎前農用地利用改善組合 等
- ・交付金 約5百万円(H29)
農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

研究機関との連携による 水田魚道等の設置



- 水田の生物多様性を確保するため、構成員、耕作者等の関係者が話し合い、水田と排水路を結ぶ水田魚道を設置
- 水田魚道は、愛知県農業総合試験場において開発されたものであり、保全会では、遡上する魚類等の観察・調査を週2回程度の頻度で定期的実施
- 生態系の保全に欠かすことの出来ないカエルを保護するため、カエルの脱出装置を水路に設置

水田魚道を活かした活動



- 水田魚道での生き物調査を実施する事で環境に対する意識を醸成



- 魚道を設置した水田を観察水田としても活用

- 観察水田で伝統的農機具を用いた農業体験を実施



更なる活動の展開



- 水田魚道を設置した水田で節減対象農薬を地域慣行の5割低減して栽培した米を「どじょうの育み米」として販売

- また、地元製パン工場とも連携し、米粉パンとしても販売



- 多様な主体による取組
(中学生によるゴミ拾い)

- ヒマワリの植栽
(活動組織が主体となってヒマワリ祭りも開催)

